**○○○○○○○○○○主題（12pt，太字）○○○○○○○○**

─ 副題（11pt）○○○○○○○ ─

**海岸 林太郎（所属名）・氏名（11pt）**

kaiganrin@kaigan.com

1. **はじめに**

本稿は，令和4年度日本海岸林学会神田・湘南大会の研究発表会における原稿作成の手引きである．この原稿自体が，発表原稿のレイアウト，使用すべきフォントのサイズやスタイルの例となる．

原稿の枚数は1枚または2枚とする．受付された原稿は，そのままオフセット印刷される．

1. **レイアウト**

原稿の上下のマージンは，このひな形ファイルをそのまま用いるか，これと同様（左右マージン25mm，上下マージン25mm）とする．フォントは，漢字，ひらがな，カタカナについては明朝体全角を，英字・数字については半角表記とし，Timesなどの代表的なRoman体を用いる．句読点には「，」，「．」を用い，「、」，「。」は用いない．

原稿は，表題部，本文からなり，必要に応じて引用文献の一覧を含む．また，数式，図，表が含まれていても構わない．本文に対する脚注，付録は用いないこと．

* 1. **表題部**

表題部は一段組で，発表の表題，著者名（所属），連絡先からなり，中央寄せで和文とする．ただし表題・副題については英文も可とする．英文の場合，Arialといったゴシック体を用いる．表題に副題がある場合，その下に副題を添える．著者の後ろに括弧付けで所属を記載する．また，その下の行に第一著者のE-Mailアドレスを記載する．なお，表題部については他の原稿と体裁が大きく異なる場合，学会側で体裁を整える場合がある．表題部で使用すべきフォントを表1に示す．

表1 表題部のフォント

|  |  |
| --- | --- |
| 表題（和文）  （英文） | 12pt　ゴシック太字  12pt Arial太字 |
| 副題（和文）  （英文） | 11pt　明朝体  11pt Roman |
| 著者名 | 11pt　明朝体太字 |
| E-Mail | 9pt，Roman |

* 1. **本文**

本文は，横45文字×縦45行，両端揃えとする．なお，行数については多少の前後の調整は可とする．フォントは11ptのものを用いる．用語を強調するため，「 」を用いても良い．

* + 1. **見出し**

見出しは第3レベルまで用いることができる．見出しの大きさは11ptとし，番号は半角のRoman体，タイトルはゴシック体とする．各見出しの上には１行の空白を置く．ただし，見出しが連続して表記される場合には1行の空白は入れないものとする．

* 1. **引用文献**

文献の引用に際しては，著者名と発行年を明記する．著者が3名以上の場合には，第2著者以降を「ら」(日本語文献の場合)あるいはイタリックの「et al．」(外国語文献の場合)で置き換える．

引用したすべての文献は，筆頭著者の姓のアルファベット順に配列し，9ptフォント明朝体を用いて原稿の末尾に置き，番号なしの箇条書きとする．本文での引用の書き方は著者名と発行年を表記するものとし，（●●ら，2000）といった表記とする．

見出しは10ptゴシックで引用文献とする．

* 1. **数式と数学記号**

各数式は，欄幅でセンタリングすることを原則とする．数式には(1)，(2)，．．．のように番号をつける．この番号は，数式の行(2行にわたる場合は最後の行)に右寄せして配置する．数式を本文から分離するため，その上下にそれぞれ1行の空白行を残す．数式が長く，途中で切断する場合は，各行の間に半行の空白行を入れる．

* 1. **図と表**

図と表は，初出のページに置くことを原則とするが，次のページに繰り込むこともできる．また，図表の挿入レイアウトは行間でも文字間でも構わない．

* + 1. **図**

図は，オフセット印刷を想定した鮮明なものとする．すべての図には，本文中で出現の順に図1，図2，．．．のように番号をつけ，1文字分の空白を入れたのち，図タイトルを必ず表記する．なお，番号は半角Roman，タイトルは明朝体とする．

* + 1. **表**

すべての表には，本文中で出現の順に，表1，表2，．．．のように番号をつけ，1文字分の空白を入れたのち，表タイトルを必ず表記する．なお，番号は半角Roman，タイトルは明朝体とする．

1. **おわりに**
   1. **○○○**

学会大会の要旨集作成のための手引を示しました．原則として，ここに示した内容（このファイル）で作成してください．

**引用文献**

* Aoyama S., Asaka T., Kudou K., and Iwashita K. (2012): Tsunami damage in the Arahama coastal forest interpreted from ALOS data. Journal of the Japanese Society of Coastal Forest 11 (2): 53-58．
* 国土地理院：平成23年（2011年）東日本大震災に関する情報提供，

http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h23\_tohoku.html，

2013.1.31閲覧

* 東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会（2012）：今後における海岸防災林の再生について（案）．林野庁森林整備部治山課，22pp．
* 中島勇喜，岡田穣編著（2011）：海岸林との共生：生物多様性保全機能（林田光祐著），山形大学出版会，pp.56-61
* 坂本知己，新山馨，中村克典，小谷英司，平井敬三，齋藤武史，木村公樹，今純一（2012）：東北地方太平洋沖地震津波における海岸林の漂流物捕捉効果．日本海岸林学会誌11（2），pp.65-70